異常像の診断的意味に関しては，症例数が少なく現時点での評価は困難で，SPECT のデータ収集や画像再構成の検討が必要と考えられた．

15. 脳血管障害における ^{123}I IMP の臨床評価

高橋貞一郎　久保田昌宏　津田　隆俊
森田　和夫　（札幌医大・放）
田辺　純嘉　相馬　勤　上出　延治
高谷　了　（同・脳外）
村山　憲一　（同・中放）

^{123}I IMP を使用して SPECT による脳血流シンチグラフィーを行い知見を得たので報告する．

症例は正常1例，脳梗塞7例，脳動静脈畸形1例内脳梗塞例については術前・術後において脳血流スキャンを施行した．

画像作製条件は，^{123}I IMP 3 mCi 静注30分後 ZLC75 ローターカメラ・カウンターバランス型にて中心半径 24 cm 60方向，1方向40秒，スライス厚6 mm，中エネルギー用コリメーターや使用しシンチパック 2400 にてデーター処理を行った．

^{123}I IMP SPECT 画像はX線 CT に比して病巣部の血流状態を良く反映し，X線 CT にて表示し得ない脳血流状態の変化をも良く示すことが知られ，また脳血管障碍の術前・術後の評価にも重要な情報を与えることを知った．

16. SPECT による脾肝容積比および集積放射能比の基礎的検討とその臨床利用

高橋貞一郎　久保田昌宏　津田　隆俊
森田　和夫　（札幌医大・放）
村山　憲一　（同・中放）

脾ファントムを使用し planar Image よりの S/L 濃度比 (定性的 S/L 濃度比), SPECT より得られる 6 mm スライス最高濃度部 S/L 比(半定量的 S/L 濃度比), SPECT により算出された脾，肝容積内の total count における S/L 比 (定量的 S/L 濃度比)を算出し各 data につき比較検討を行った．

この基研究により従来行われてきた定性的 S/L 濃度比に比較して SPECT による定量的 S/L 濃度比は脾・肝の形態および解剖学的位置関係により，その値は変動せず gr 当たりの S/L 濃度比も算出し得ることから症例間の比較検討が可能になり，症例の経過観察および判定に重要な情報を与えうることを知ったので報告する．

17. ^{99m}Tc HIDA 肝胆系スキャンの高年齢者使用経験について

高橋貞一郎　久保田昌宏　津田　隆俊
森田　和夫　（札幌医大・放）
松島　達明　及川久仁夫　浅野　郁郎
浜田　敏克　（愛全病院）

60歳以上の高齢者で ^{99m}Tc Sn Colloid Hepatoscintigraphy により慢性肝炎もしくは肝硬変パターンを示した233例につき ^{99m}Tc HIDA 使用の Hepatoscintigraphy を施行したところ，胆のう胆管の描出はあっても腸管排泄の遅延や，胆管描出はあっても胆のうの描出がなく腸管排泄の60分以上遅延する例が多かった．

すなわち，Renal Peak Time 20分以上遅延 47.2%，Renal Disappearance Time は 92.2% が15分以上の遅延，Billiary Duct Peak Time の30分以上遅延は 84.2%，Gall Bladder についても Appearance Time は 27.1% が30分以上遅延，Peak Time の30分以上遅延は 84% にみられた．

また，Duodenum Appearance Time では 36.1% が60分以上の遅延を示し，6.4%は不描出であった．

以上から高齢者の多くは肝機能障害が存在するが，低蛋白血症に加えて排泄遅延が肝硬変，慢性肝炎像の生因に関係する可能性が示唆されたので，今後さらに検討を進めたい．

18. レノグラムによる腎機能解析——deconvolution analysis——

伊藤　和夫　齋藤　博哉　辻　比呂志
入江　五朗　（北大・放）
中駄　邦博　藤森　研司　古舘　正従
（同・核）

単腎の腎機能評価のパラメータとしてレノグラムの deconvolution analysis にて腎全体での MTT，腎盂を除いた部分での MTT を算出した．

Presented by Medical*Online